

## 貧困 (3)

東京台東区の NPO 法人の活動に参加させてもらう。

日雇い労働者は身体が資本、ケガして仕事が出来なくなったり、酒で身体を壊したり、働けないとたちまち蓄えがつかまる。

生活保護制度もあるが、安易にお上の世話になるのは自尊心がジャマをするようだ。

それに何をどう準備して役人に頼ればいいのか素人には敷居が高い。係官との事務的なやりとりにしくじって受給できるチャンスが遠のく人も。

人嫌いになり、とうとうホームレスになって路上テント生活、空き缶を集め(買い取り価格 1kg85 円・8kg680 円) コメと味噌など最低限の食材で食いつなぐ。

隅田川テラスはホームレスには暮らしやすいところだそうだが、ただそういう場所は同じ境遇の人が集まる。満員で入りこめるスペースがない。ここは市民の遊歩道でもある。行政がブルーシートテント村状態を許してるわけじゃない。

(刈り込み) と言って月に 1 回、河川敷の清掃日があり、警察署の指示で全てのブルーシートテントをどかさなといけな。そん



アルミ缶の買取相場 (2004 年頃)  
1kg→85 円 8kg で 680 円、

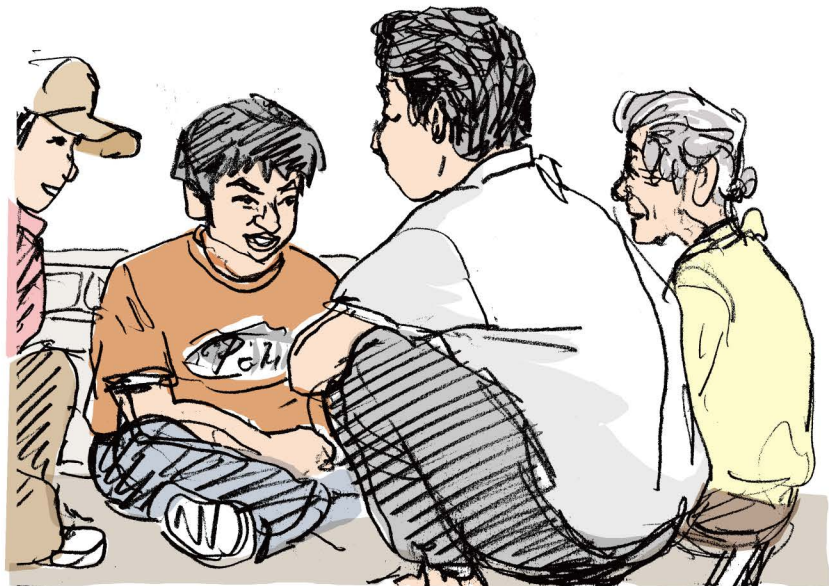
な日はホームレス同士助け合って、互いのテントをテラス上の植込みに移動する。午前中で清掃が終わり作業員がいなくなるとまた助け合って元に戻るのだ。

しかしそんな路上生活も長く続けるのは難しい。日雇いの仕事も 50 歳を越える頃から急に声がかからなくなるそうだ。

生活保護などの助けを受けるには郵便物を受け取れる住所 (アパート) が必要。

建設会社の寮や簡易宿泊所では認めてくれない。路上生活から抜け出す道は限りなく遠いのだ。

アウトリーチ (傾聴活動) に参加させてもらい、アルファ米おにぎりを手土産に彼等の話を聞いてまわった。ある小さなテントに 70 過ぎの老婦人と 50 前後の息子さんの親子がいた。息子さんはともかく老婦人にテント生活の境遇は話を聞かせてもらうこちらもつらい。アウトリーチ (傾聴活動) はこういう人達の事情を聞き取り、何となく一人でも多く行政の援助につなげたいという祈りをこめた活動でした。 (おわり)



70 過ぎの老婦人と 50 歳位の息子のホームレス、なんとかはやくアパート生活にもどってほしいと切に願った。身の上話を聞くのがつらかった。

# 東成区の昭和



(42) 給食



# 東成区の昭和



(43) 給食





(44) 給食



(45) 給食





# 東成区の昭和



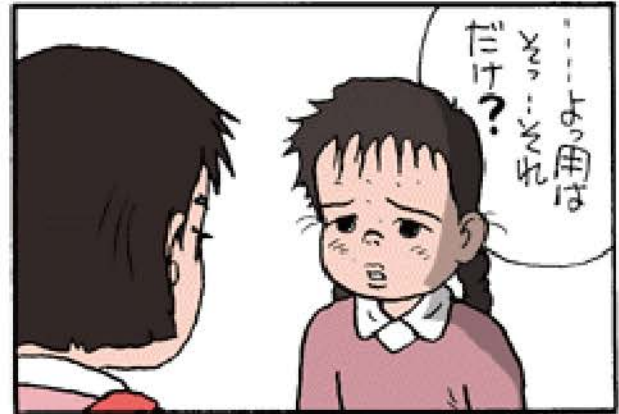
(46) 給食



# 東成区の昭和



(47) 給食





(48) 給食



(49) 給食





# 東成区の昭和



(50) 給食



# 東成区の昭和



(51) 給食





# 東成区の昭利



( 52 ) 給食



# 東成区の昭利



( 53 ) 給食





(54) 給食



(55) 給食 おわり

